

『台湾原住民文学選』日本語翻訳の意義

《台灣原住民文學選》 日本語譯本的意義

The Values of the Japanese Version of the *Anthology of Writings by Taiwanese Aborigines*

文（日本語及漢語）・圖 | SHIMOMURA Sakujiro 下村作次郎（《台湾原住民文学選》日譯者）



日本の草風館より刊行された『台湾原住民文学選』は、2002年12月に第1巻『名前を返せ』を出版して以来、昨年（2009年）4月に第7巻『海人・獵人』が刊行されて全9巻が完結した。全9巻というのは、日本で翻訳された世界の先住民族文学のなかでも最大規模の文学選である。



巴代（左一）、奧威尼·卡露斯盛（中）與筆者合影。

由日本草風館出版的翻譯集《台灣原住民文學選》自2002年12月第1卷《恢復姓名》出版以來，到2009年4月第7卷《漁人·獵人》刊行，共完成全9卷的出版。我想，在日本所翻譯的世界原住民文學之中，全9卷算是規模最大的文學選集。

『台湾原住民文学選』の内容

『台湾原住民文学選』全9巻の各巻の書名と翻訳者は次の通りである。

- 第1巻：下村作次郎編訳・解説『名前を返せ
モーナノン集／トパス・タナピマ集』
- 第2巻：魚住悦子編訳・解説『故郷に生きる
リカラッ・アウー集／シャマン・ラ
ポガン集』
- 第3巻：中村ふじゑほか編訳、小林岳二解説
『永遠の山地 ワリス・ノカン集』
- 第4巻：柳本通彦／松本さち子ほか編訳 柳
本通彦解説『海よ山よ 十一民族作
品集』
- 第5巻：紙村徹編・解説『神々の物語 神話
・伝説・昔話集』
- 第6巻：下村作次郎編・解説『晴乞い祭り 散
文・短編小説集』
- 第7巻：魚住悦子・下村作次郎編訳・解説
『海人・獵人 シャマン・ラポガン
集／アオヴィニ・カドウスガヌ集』
- 第8巻：下村作次郎編・解説『原住民文化・
文学言説集Ⅰ』
- 第9巻：下村作次郎編・解説『原住民文化・
文学言説集Ⅱ』

『台湾原住民文学選』の意義

本選集の意義をあげると、次のようなことが指摘できる。

(1) 規模の大きさ。台湾人口の2パーセントの人々によって表現された文学世界が全9巻という規模で翻訳出版されたことの意義は決して小さくない。(2) 台湾原住民族の世界を知る。(3) 台湾原住民族文学の世界への進出。台湾原住民族文学は日本進出を契機に、さらに世界に広が

《台灣原住民文學選》の内容

《台灣原住民文學選》全9巻、各巻書名及譯者名字如下：

- 第1巻：下村作次郎編譯・解説《恢復姓名
Monaneng（莫那能）集／Topas
Tamapima（拓跋斯・塔瑪匹瑪）集》
- 第2巻：魚住悦子編譯・解説《生活在故郷中
Liglav A-wu（利格拉樂・阿鳩）集／
Syaman Rapongan（夏曼・藍波安）集》
- 第3巻：中村ふじゑ等編譯、小林岳二解説《永
遠の山地 Walis Nogan（瓦歷斯・諾
幹）集》
- 第4巻：柳本通彦／松本さち子等編譯、柳本通
彦解説《海啊山啊 11族作品集》
- 第5巻：紙村徹編輯・解説《眾神的故事 神
話・傳説・老故事集》
- 第6巻：下村作次郎編輯・解説《求晴祭 散
文・短篇小説集》
- 第7巻：魚住悦子、下村作次郎編譯・解説《漁
人・獵人 Syaman Rapongan（夏曼・藍
波安）集／Auvini Kadresengan（奧威
尼・卡露斯盎）集》
- 第8巻：下村作次郎編輯・解説《原住民文化・
文學評論集Ⅰ》
- 第9巻：下村作次郎編輯・解説《原住民文化・
文學評論集Ⅱ》

《台灣原住民文學選》の意義

試想一下本選集の意義，如下所列舉：

(1) 規模之大。占台灣住民人口的2%的族人所表現的文學作品世界，以全9巻的規模在日本的文化界翻譯出版，它的意義絕非小可。(2) 瞭解台灣原住民族文學的世界。

り、今後はシャマン・ラポガンやアオヴィニ・カドゥスガヌ、ネコツ、バタイらの長編小説が英語やフランス語などに翻訳され、世界少数先住民族文学として世界の読者に読まれることが期待される。(4) 台湾原住民族の神話伝説を知る。(5) 原住民族の書写文学を知る一描かれる対象から表現者へ。(6) 独立した台湾原住民族文学史の執筆。台湾原住民族文学は台湾文学の一環か？大きな枠組みで捉えれば、台湾文学史のなかでその発展史を考えることができるが、原住民族の独自性を重視した視点に立てば、神話伝説から書写文学までを



台湾原住民族文學地圖。

最後に『黒い胸びれ』（魚住悦子訳）の作者シャマン・ラポガンが、9月23日から10月1日まで東京で開催された国際ペン東京大会2010に台湾の作家を代表して招聘され、「環境、文學與現代性的滲入」と題する講演を行ったことにふれておきたい。台湾の作家が国際ペンクラブの大会に招聘されたのははじめてのことであり、日本の作家が台湾原住民族文学に強い関心をもっていることがうかがえる。

含む『台湾原住民族文学史』が構築でき、従来の台湾文学史の枠組みには収まらない文学史となる。浦忠成著『台湾原住民族文学史綱（上・下）』（里仁書局、2009年10月）が出版された。

(3) 進入日本の台湾原住民族文學。台湾原住民族文學以進入日本為契機，再擴展至世界，今後將期待夏曼·藍波安、奧威尼·卡露斯盎、乜寇、巴代等的長篇小說譯成英語或法語等，做為世界少數民族文學被世界的讀者所閱讀。(4) 瞭解台灣原住民族的神話傳説。

(5) 瞭解原住民族的書寫文學——從被描寫的對象到表現者。(6) 撰寫獨立的台灣原住民族文學史。台灣原住民族文學是台灣文學的一環嗎？若掌握大框架的話，在台灣文學史中是可以思考它的發展史的。如果站在尊重原住民族獨特性的視野的話，含括從台灣原住民族的神話傳説到書寫文學，是可以建構「台灣原住民族文學史」的，已有浦忠成著《台灣原住民族文學史綱》（上、下。里仁書局，2009）。

最後，我想要順帶提及，《黑色的翅膀》（魚住悦子譯）的作者夏曼·藍波安，代表台灣作家受邀，參加9月23日到10月1日於東京召開的2010年國際筆會東京大會，以「環境、文學與現代性的滲入」為題做演講。台灣的作家是首次受國際筆會邀請，由此可見日本作家對台灣原住民族文學相當關懷。◆



SHIMOMURA Sakujiro
下村作次郎

日本和歌山縣新宮市人，1949年生。天理大學中文系畢業，關西大學文學研究所博士課程修了。博士（文學）。現任天理大學教授、天理台灣學會會長、日本台灣學會理事。1980年-1982年為中國文化大學交換教授，2000年9月-2001年3月為國立成功大學台灣文學研究所客座教授。